

館所蔵「鋸」資料について（平成14年度ふるさと交流館年報掲載レポート）

今井 真司（下川町ふるさと交流館学芸員）

1 はじめに

本報告では、平成14年10月26日～11月30日に実施した第21回企画展「のこぎり」において展示した天王寺鋸、窓鋸、木挽鋸、腰鋸など各種鋸について、展示に伴い調査した資料データを紹介します。

2 鋸の歴史

鉄製鋸の使用は古墳の出土遺物などから4世紀頃から始まります。形は初めの頃は歯の部分以外を鞘に収めた鋸で、その後両手で持って横に動かして切る鋸を経て現在の柄付きの鋸に発展しました。また歯（刃）も初期の頃は二等辺三角形でしたが、6世紀には切りやすいように下歯・上歯の角度に変化が付けられ、アセリやナゲシ（歯）も付けられるようになりました。鋸の大きな変化としては室町時代（14世紀ごろ）それまでの斧やクサビ、ノミを使って丸太を繊維方向に割る製材方法に替わって縦挽き大型鋸「大鋸」が使用されるようになったことです。これは大鋸の両端を二人で持ち製材する「台切鋸」、細長い鋸に竹や木で枠を付けた「枠付鋸」でした。後に一人で切る「前挽鋸」が出現し、江戸時代には現在ある鋸の大部分が使われるようになりました。明治時代になると現在最も使用される両刃鋸が作られるようになりました。素材の鉄は明治時代になると玉鋼から板状の鋼（東郷鋼、安来鋼）に変わり大量生産されるようになりました。

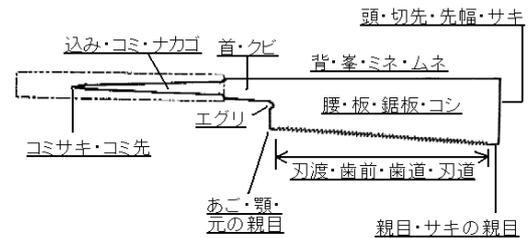
下川での鋸の記録には、開拓期の日記「松久日記」に冬季間の男の仕事のひとつとして「板作り」が挙げられています。当時は製材された板を買うことは費用・運搬など難しく板は貴重なもので、そのため板の貸し借りがされていました。当時の値段について種類は不明ですが一本30銭ほどでした。明治40年代になると、下川地区でも造材がはじまり造材用の鋸が多く使われるようになります。大正元年の上名寄原野全図には鋸製造者として「中屋鉄工場」が見られ町内にも鋸製造や目立て業者が現われます。昭和43年発行の「下川商業協同組合創立五十周年史」には、「金物鋸—小林孝治郎」の名があります。

3 鋸の部分と名称

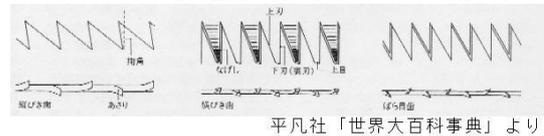
鋸の各部分の名称は、参考にした文献によってわずかに違います。それは地域によって方言のように違いがあること、また鋸鍛冶職人には野鍛冶以外に明治以降刀鍛冶から転向した職人もいるため刀の名称が使われことによります。

歯（刃）の種類には木材の繊維方向に切る「縦びき歯」、繊維を直角に切る「横びき歯」、繊維方向に関係なく切る「ばら目歯」があります。全てに刃を左右に曲げ木を切り易くする「あさり」が付けられています。「縦びき歯」の特徴は木をノミで削るように切るために下刃に掬（すくい）角が10度位付けられ、「横びき歯」には刃の先端を補強するために「上

目」と「なげし」が付けられ、「ばら目歯」は上刃・下刃だけが付けられています。また伐木用の「窓鋸」（トラクター鋸）は横びき歯に、オガクズを集めて掻き出すための「鬼刃」とオガクズをためる「窓」が付けられ、丸太を縦にひいて製材する「木挽鋸」には縦びき歯がより木にくいこむよう「チョン」が付けられています。



吉川金治「鋸」より（イラスト加筆修正）

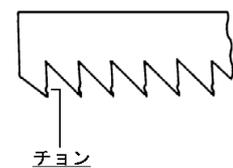


平凡社「世界大百科事典」より

窓鋸の刃



木挽鋸の刃



山本雄三・小林幸雄他「鋸製造と技術に関する調査(1)・(4)」より

4 鋸の主要な生産地

道内の鋸製造業者には、道外の生産地で修行して鋸鍛冶となり道内各地で工場を開く者とその弟子達、創業者と呼ばれた道外生産地職人、少数ではあるが独力で鋸製造を始めた者などがいます。最も早い時期に開業した者には明治7年から大正末まで小樽で開業した小林幸太郎氏があり、明治末から大正、昭和20年代にかけて道内の林業が盛んとなり、それに伴う各種の鋸の需要も伸び、旭川の猪股氏、釧路の難波氏、伊達に加藤氏、北見の丹羽氏、滝川の佐藤氏、深川の竹岡氏等、多くの鋸製造業者があらわれたが、昭和30年代になると、伐採が鋸からチェーンソーへと機械化するなど産業構造の変化から、製造業者は目立業へと転換した。

全国の生産地には、古くから摂津国（大阪）天王寺、京都伏見、播州（兵庫）三木、会津（福島県）若松、越後（新潟）三条、信州（長野）諏訪、土佐（高知）など多くの鋸の生産地があります。それらの生産地がいつ頃から鋸鍛冶を始めたのかは不明な点が多いが、江戸時代には各地で鋸の生産がされるようになりました。

○道内各地の鋸製造者 太線内は同じ系統の職人、()は鋸銘

市町村名	鋸製造者・会社名			
小樽市	小林幸太郎 明治7年から創業	小林幸治 二代目	小林正治 三代目	小林幸夫 四代目 大正末期には目立業に転業した
旭川	猪股常三 明治45年旭川に移住して製造を開始する。	猪股常吉(中屋重平宗正) 二代目、昭和3年工場設置し大量生産を始める。	(猪股常吉の工場の職人) 小桧山春松、小桧山次郎、皆川常吉、神田力松、相馬某	中屋重兵衛 猪股系統?
羽幌	岡田 満 元猪股常吉の職人			
士別市	藤原 茂 元猪股常吉の職人		五十嵐儀平 元猪股常吉の職人	
名寄市	中屋金助			
釧路	難波仁太郎(中屋仁作)新潟県三島町で修行し、岩内町丸山金物店で目立て職人として勤め、その後倶知安町、生田原町を経て、大正9年から釧路市区黒金町で開業する。	難波太郎(中屋太郎正衛門)仁太郎の子、当初は釧路で開業するが、現在は新潟県三条市において機械化し大量生産に成功する。	難波良一 現在は製造を中止している。	中屋太郎左衛門 難波系統?
江差	山崎喜八郎(中屋喜八郎)昭和2年より開業し、昭和37・8年頃まで製造していた。			
壮瞥町	加藤善作(中屋善太郎)初代、明治30年末に鋸製造始める			
伊達市	加藤善三(中屋善太郎)二代目、昭和11年から伊達市で鋸製造を始める。		加藤善太郎(中屋善太郎)三代目、昭和30年頃には目立業になる。	
苫小牧	加藤 博 壮瞥町の加藤善作の元で修行し苫小牧で開業する		佐藤忠男 元北海兼光(竹岡亀司)の職人	
紋別市	丹羽芳蔵 丹羽初代、明治40年に同郷出身の鍛冶屋で場所を借りて始める			
滝上町	丹羽松蔵(丹羽守義正)二代目、大正11年に滝上町に支店を開業する。			
北見市	丹羽正(丹羽守義正)三代目 昭和24~遠軽、昭和31~北見。昭和35年頃廃業		竹岡義郎(北海兼光)亀司の弟、昭和24年に支店を開設し、30~35・6年まで鋸を製造した。	
深川	竹岡亀司(北海兼光)大正13年から独力で技術を身につけて製造を開始する。		竹岡昭雄 亀司の子供	
帯広	赤松長二 元北海兼光(竹岡亀司)の職人			
恵庭	梅原美弘 元北海兼光(竹岡亀司)の職人			
芦別	成田秀雄(北海秀光) 元北海兼光(竹岡亀司)の職人			
富良野市	小川弘一 元北海兼光(竹岡亀司)の職人			
沼田	橋本和雄 元北海兼光(竹岡亀司)の職人			
札幌	竹岡健司 亀司の子供		萩田利夫(北海兼利)元北海兼光(竹岡亀司)の職人	
千歳	白鳥 勲 元北海兼光(竹岡亀司)の職人			
留萌	森健次郎(留萌兼光)猪股常吉の下で勤めた後、竹岡亀司(北海兼光)でも鋸製造職人として勤める。昭和22~32年に製造をやめ目立業となる。			
滝川	堀井春信 元北海兼光(竹岡亀司)の職人			
	佐藤太一(大久保太一)元大久保捨次郎(高沢捨次郎)の職人	高沢一(大久保市太郎正光) 3代目 栗山町の久保七五郎のもとで修行、初め幌加内町添朱内で開業-幌加内町朱鞠内-富良野市-滝川市で開業、昭和26年まで製造する。		
早来町安平	大久保捨次郎 高沢捨次郎 2代目、明治39年から製造開始			
追分町	佐藤精二(大久保精二) 元大久保市太郎正光(高沢一)の職人		佐藤喜一(大久保喜一)元大久保市太郎正光(高沢一)の職人	
平取	島万次郎(大久保万次郎)元大久保捨次郎(高沢捨次郎)の職人			
中川	今津峯吉(大久保峯吉)元大久保捨次郎(高沢捨次郎)の職人		今津安造(大久保安造)元大久保捨次郎(高沢捨次郎)の職人	
岩見沢	菊地彦松(大久保彦松)元大久保捨次郎(高沢捨次郎)の職人			
栗山	鎌田七五郎(大久保七五郎)滝川の久保市太郎正光の師匠)		湯村勇(大久保勇)元大久保市太郎正光(高沢一)の職人	
夕張	栗田勇(大久保勇)元大久保市太郎正光(高沢一)の職人		真山貢市(大久保貢市)元大久保市太郎正光(高沢一)の職人	

小林幸雄「北海道の伝統的生産技術 VI鋸」(北海道開拓記念館研究報告第5号)他より

○道外各地の鋸製造者

都府県	鋸製造者・会社名					
秋田県	中屋重好、中屋和吉、中屋儀衛門、中屋吉兵衛					和吉(秋田)
山形県	中屋善二、中屋由蔵、中屋保エ門、中屋善左衛門、中屋徳エ門(本間徳エ門一壮警町中屋善太郎の師匠)、中屋源左衛門(紋別市丹羽芳蔵の師匠)				勇左衛門、和助、安蔵(山形)	吉蔵(及位)
宮城県	東作(仙台)					
福島県	中屋重吉、中屋忠左衛門、中屋真兵衛、中屋長五郎、中屋左衛門、中屋来衛門、中屋重左衛門、中屋忠兵衛、中屋友右衛門、中屋長右衛門、中屋重正、中屋清左衛門、健康の日本利正、大日本鋸工場、中屋善一郎、中屋幸吉、中屋興吉、中屋来右衛門、中屋重太郎、中屋重弘、会津鋸会社、中屋重久、中屋長左衛門、中屋久右衛門、中屋常右衛門、中屋光右衛門、中屋幸右衛門、中屋重三郎、中屋正右衛門、中屋正吉、中屋重五郎、中屋良治(会津)				重左衛門、助左衛門、重兵衛、安左衛門、忠左衛門、伝左衛門、市右衛門、幸兵衛、秀右衛門、八次郎、長五郎(会津若松)	宗次郎、重作(喜多方)
群馬県	中屋熊五郎、文平、庄五郎(桐生)	金太郎、弥一郎(大間々)	仙次郎(沼田)	岩五郎(中之条)	兼五郎(安中)	作次郎、安次郎、新蔵(下仁田)
茨城県	平治、孝次郎(水戸)					
栃木県	深吉(矢板)	美左五郎、金次郎(烏山)	作次郎、芳右衛門(宇都宮)	松五郎(佐野)	要之助(足利)	
千葉県	八重三(四街道)	嘉助、栄作、久作、助六、金作(館山)			定吉(和田)	雄造(鴨川)
埼玉県	秀五郎(深谷)		金五郎(熊谷)		滝次郎、辺作(川越)	
東京都	平治郎、久作、鉄作、鬼作、米次郎、源次郎、虎次郎、常次郎、元吉、周助(東京)			二見屋甚八、二見屋岩作、二見屋浦吉、沖五郎、陳作(調布)		二見屋系分流(府中、八王子)
神奈川県	重三郎(横須賀)		久作、栄作(平塚)		半兵衛、文治郎、八重治郎(小田原)	
静岡県	幸吉(御殿場)					
新潟県	中屋定次郎、中屋茂三郎(三条)	重太郎(村上)	卯太郎(小須戸)	助二(燕)	四兵衛、伊之助、正一郎、介左衛門(三条)	
	与三郎、吾作、平作(長岡)	弥右衛門(与板)	庄兵衛、藤蔵、庄三郎、庄左衛門、庄之助、庄五郎(脇野町)	庄次郎(出雲崎)	虎五郎(小千谷)	助作(牧)
富山	熊吉(魚津)					
長野県	七左衛門、陸平(上田)	竹蔵(小諸)	中屋甚九郎、小尾九郎兵衛、宮坂甚三郎、長田甚四郎、河西甚五郎、関甚五右衛門、小林甚八、宮下九平、伊勢吉、米吉、春永、金蔵、孫平、文蔵、倉蔵、栄布、猶勝(諏訪・茅野)			
京都府	谷口徳兵衛(伏見)					
兵庫県	中屋重左衛門、中屋利正、中屋篤兵衛、中屋政宗(播州)		中屋徳兵衛、中屋来二郎、中屋寛左衛門、中屋俊二郎、中屋与三郎、中屋清一郎、中屋元治郎、中屋重国、神東正宗、神澤鍛錬場、龍神丸工場(三木)			
高知県	林万吉、尾立貞義、尾立寅治、尾立初太郎、武田兼一郎、西村胤盛、片上茂、山崎徳吉、香西政義(土佐)		片品、片常、片晴、片公、片信、片文、片管、片福(後、原福)、片文常(尾立寿男)、片一、片茂、片富、片団、片百、片良、片百兄、片宮、片鶴、片豊、片健(土佐山田町)			
不明	中屋和吉、中屋東衛門、中屋重吉、中屋五郎兵衛、中屋吉兵衛					

明朝体：山木雄三「山林用大鋸の形態と機能について」(北海道開拓記念館研究年報第2号)1973、小林幸雄他「鋸製造と技術に関する調査(1)一館資料の分類」(北海道開拓記念館調査報告第10号)1975

明朝体(斜)：平澤一雄「産業文化史 鋸」クオリ 1980

ゴシック：香月節子・香月洋一郎「鍛冶屋のむら・序説」(月刊百科No.257)平凡社 1984

注)製造者の名前には「銘」と本名が混在しています。また表は各論文から地名毎の名前を拾い出しただけなので、重複、鋸製作年代については不明点が多い。文末の()は地名。

5 収蔵資料について

本報告では所蔵している鋸の内 95 点について種類、収蔵No、各寸法、銘・特徴等にわけて表で示した。種類については天王寺鋸：大型の伐木用鋸、窓鋸：大型の伐木用鋸の内窓のあるもの、腰鋸：天王寺鋸より小形で、およそ刃渡が1尺2寸≒36cmの鋸、木挽鋸：縦びき用の大形鋸、二次加工された鋸：天王寺鋸や窓鋸などを切断し加工した鋸、その他：小形の鋸で先端が細くなった鋸(差切鋸)や氷用鋸に分類した。

銘は歯(刃)を下に向け柄が向かって左側になる面を表として、反対側を裏として記入した。銘文は上部及び右列から順に説明するが、まとまっている場合はまとめて表示した。不明な文字については■として示し()内に想定する語句を記入した。屋号については■として表示し、()内に記号部分と語句を分けて表示した。

種類	収蔵No.	寸法 (cm)						銘・特徴等
		全長	先幅	手元幅	柄長	柄径	刃渡	
天王寺鋸	532	97	15	11	19	5.2	74	表：■（屋号＝八に「ヒ」） 特製 保険 ■■■■ （「登録商標」カ） 片富 見立■■ 請合
	920	64.7	8.7	7	12.7	4.1	50.1	表：玉鋼打 中屋儀■郎作 特製 裏：下川■（屋号＝八の下に「小」）小林■■（請合カ）
	922	76	15.5	11.1	15.2	3.5	52	表：中屋源兵衛
	1197	85	17.5	15	18.2	4	60	表：會津 中屋友右衛門作（花押） 日本一
	6466	105	18.5	13.2			60.2	表：登録商標 正鋼■■■合 玉■特製
	6470	84.6	15	9.4	16	5.2	60.9	表：有功賞牌 都兼重■（治カ）（花押）
	6473	103	18	13.5			73.5	表：登録 特別製 ■（屋号＝「一」の中に「友」） 保険 ■（組合印カ） 片友 藤田友次郎請合
	6476	73.5	11.8	7.7	18.6	4.6	53.3	表：四十年式 登録 ■津■（屋号＝「一」の中に「大」） 大正合名會津鋸會社改
	6479	86	14	10.5	16.5	4.9	61.5	表：登録商標 大■■ 大極上 中屋重左衛門作 別打品
	6984	90	15.5	12	18	5.1	64.8	表：大極上 中屋元治郎作 別ト 上■
	6985	97.3	16	11.5	16.5	5.5	74.8	表：■（屋号＝不明） 壹等品 登録商標 片万（隅丸四角に囲まれている） 正鋼 特製 林万吉謹製
	6986	88	12.2	8.6	16.2	4.1	52.5	表：等品■查（一列不明） 登録商標 ■（屋号＝一の中に「重」） ■田別■録場製
	15871	65.5	11.2	7.2	20.5	4.6	49.5	表：極上■（等カ） 中屋重八作（花押） 別打品
	15881	78.5	12.5	7.5			46	表：■■■ 中屋徳■■門■■（花押） ■■■ 特徴：大きさは伐木用の天王寺鋸であるが、鋸の先の形状が差切り鋸風になっていることと刃から手元までの間が長いところが木挽大鋸風でもある。
	15882	109	12.2	10			76	表：■（マークカ） 各■覽會 ■■■■状 土州 片國 香取國松請合 ■■
15885	96	18	13	15.5	4	69.5		
15886	94.8	11.5	8	14.5	5	75.5	表：■（マーク＝二重丸の中に「仲」、間に「■片地■」） 登録商標 片百（以下不明）	
15887	89.7	16.1	11	16.1	3.8	64		
窓鋸 (トラクター鋸)	143	91	24	17	19.2	5	67.5	特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数（鬼刃を除く）4本
	515	93	20	15	18.2	4.6	68.3	表：大極上 中屋重兵衛作（花押） 特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数（鬼刃を除く）4本
	516	85	16.9	13.1	17.8	3	61.5	表：儀 登録 極■撰 玉鋼打 秋田市住中屋儀兵衛門作 ■上 特製 裏：下川（屋号＝八のした小）小林請合 特徴：窓の数は13ヶ所で窓間の刃の数（鬼刃を除く）2本
	517	85	17	13	17.1	3.4	62	表：登録 極■六 玉鋼打 秋田市住中屋儀兵衛門作 万上 特製 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数（鬼刃を除く）4本
	533	75.7	16	12.5	17	4.2	56	表：渡辺 共 玉■■■（中央の製作銘は磨耗のため判読不能） 特製 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数（鬼刃を除く）4本
	536	60	9	7.2	17	3.2	45.8	表：會津住 中屋孝（カ） 治作（花押） 日本一 特徴：窓の数は13ヶ所で窓間の刃の数（鬼刃を除く）2本
	537	96	18	11.5	19	4.5	62	表：■（屋号＝「一」の下に「光」） 登録 會津住 中屋光左カ衛門作（花押） 日本一 裏：下川（屋号＝「八」の下に「小」）小林 安来鋼 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数（鬼刃を除く）4本
	538	59.8	9.1	8	15	4.1	49.8	表：■（屋号カ） 會津莊 中屋幸（カ） 太信（花押） 日本一 特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数（鬼刃を除く）4本
	539	82	17	13.5	17.2	4	62.1	表：白紙鋼打 ■■■■住中屋■■■■（儀兵衛門カ） 最高級品 裏：下川■（屋号＝八のした小）小林請合 特徴：窓の数は13ヶ所で窓間の刃の数（鬼刃を除く）2本
	921	76.5	15	8.5	7.8	4.5	55.8	表：登録 會津 中屋友右衛門作（花押） 日本一 裏：下川■（屋号＝八の下に「小」）小林■■（請合カ） 特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数（鬼刃を除く）4本
1178	84	19	15.4	17.8	4	61	表：日本一 中屋金作（花押） 會津莊 裏：■（屋号＝北海道の形の中に一とその中に「光」） 刃前接 特徴：窓の数は16ヶ所で窓間の刃の数（鬼刃を除く）2本	

種類	収蔵No.	寸法 (cm)						銘・特徴等
		全長	先幅	手元幅	柄長	全長	先幅	
窓 鋸 (ト ラ ク タ ー 鋸)	1179	84	19.5	15.7	18	4.2	61	表：六 玉鋼打 ■ (判読できず) ■ 特製 裏：■ (屋号=北海道の形の中に「一」とその中に「光」) 深川町 刃前接 特徴：窓の数は11ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	1180	82.5	19	13.9	17.5	4	61	表：會津の光 登録 會津莊 中屋光谷信■ (御のくずし字カ) 作 (花押) 裏：■ (☆の中に赤) 下川赤井 安来鋼 特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	1181	62.2	10	7.5	16		48.5	表：商標 ■ (屋号=四隅の飛び出す◇の中に「上」) 會津莊 中屋宗■ (英カ) 信作 (花押) 日本一 裏：名寄町 中屋金助 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	1182	70	10.5	7.6	17.5	3.5	53.1	表：登録 玉鋼打 秋田市住中屋儀兵衛門作 (花押) 特製 裏：■ (屋号=「☆」の中に「赤」) 下川赤井 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	4620	91	14.5	9.8	13.9	4.7	63	表：中屋重吉作 特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	4947	84	16.7	13.2	15.5	4.6	62	表：秋田市住中屋儀右衛門作 裏：下川■ (屋号=∧の下に「小」) 小林■■■ 特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	4948	82	19	14.5	17.5	4	60.8	表：會津の光 登録 ■ (屋号=「一」の中に「光」) 會津莊 中屋光右衛門作 (花押) 日本一 裏：安来鋼 特徴：窓の数は13ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 2本
	4949	93	22.2	16.7	19.5	4.5	67.5	表：賜一等賞於各博覽會 登■ (マーク=二重○の中に「万吉土佐鋸鍛冶組合」) 本家土佐 登録商標 片万 (隅丸四角に囲まれている) 正鋼特製 林万吉謹製 裏：下川町■ (屋号=∧の下に「小」) 小林又■■■ (弥次カ) 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	6465	89.2	22.5	17	19.5	4.7	67.2	表：登録 ■■■ 玉鋼 秋田市住中屋儀右衛門作 別■ 特打 裏：■ (屋号=「☆」の中に「赤」) 下川赤井 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本。No.6471の袋の中にある。
	6467	78	15.5	13	14.5	3.5	55.5	表：■ (屋号=北海道の形の中に「一」その中に「光」) 深川町 北海兼光作 (花押) 駅前 特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	6474	83	17.5	12.5	19	4.2	62	表：■ (屋号=桜の形の中に「一」の下に「光」) 登録 會津住 中屋光右衛門作 (花押) 日本一 裏：名寄中屋金助 安来鋼 (拓本取れず) 特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	6477	91	21.3	14.5	18	4.5	68	表：儀 登録 極鍛撰 玉鋼打 秋田市住 中屋儀兵衛門作 別上 特製 裏：下川町 (屋号=∧のした小) 小林請合 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	6480	96	21	15.5	7.6	4.1	66.5	特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	6567	82.5	18.5	13	17	4	62	表：■ (屋号=桜の形の中に「一」の中に「光」) 登録 會津莊 中屋光右衛門作 (花押) 日本一 裏：下川町 ■■■ 三和 安来鋼 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	7782	91	21	10	18	4.6	67.7	表：■ (屋号カ) 登録 會津莊 中屋光右衛門作 (花押) 日本一 裏：名寄中屋金助 安来鋼 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本。
	7783	73.5	7.1	7.5			48.5	特徴：窓の数は14ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 2本
	7786	84	19.6	13.9	15.5	4.8	61.9	特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
	7787	81.5	21	16	16.2	4.5	61.2	裏：下川町 (屋号=∧のした小) 小林請合 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 4本
7788	82	18.5	14.8	16.5	4.5	61.5	表：■ (屋号=「一」の下に「箋」) 登録 ■撰 玉鋼打 秋田市住中屋■■■■■作 ■上 特製 裏：下川 (屋号=∧のした小) 小林請合 特徴：窓の数は13ヶ所で窓間の刃の数 (鬼刃を除く) 2本	

種類	収蔵No.	寸法 (cm)						銘・特徴等
		全長	先幅	手元幅	柄長	全長	先幅	
窓 鋸 (ト ラ ク タ ー 鋸)	7789	61.5	8.5	6	16.2	3.7	46.8	特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数(鬼刃を除く)4本
	7790	82.5	20	10	19.5	4.5	61.5	表：會津の光 ■ (屋号=桜の形の中に「一」の中に光) 登録 會津住 中屋光右衛門作 (花押) 日本一 裏：安来鋼 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数(鬼刃を除く)4本
	14338	109	22	16	20	5	67	表：登録商標 日本一 中屋直兵衛 (花押) 會津住 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数(鬼刃を除く)4本
	14730	82.6	19.7	14	16.5	4.9	62.5	表：會津の光 登録 ■ (屋号=桜の花びらの中に「一」とその中に「光」) 會津莊 中屋光右衛門作 (花押) 日本一 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数(鬼刃を除く)4本
	15875	90.5	19.3	13.8	17	4.5	68.5	表：■ (屋号=桜の花びらの中に「一」とその中に「光」) 登録 會津住 中屋光右衛門作 (花押) 日本一 裏：安来鋼 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数(鬼刃を除く)4本
	15883	104	19.5	14.1			68	表：北海兼光作 特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数(鬼刃を除く)4本。
	15888	73.3	14	12.1	18	3.7	53	表：■ (屋号=北海道の形の中に「一」その中に「光」) 深川町 駅前 北海兼光■ (花押) ■■ 特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数(鬼刃を除く)4本。
	15889	98	12.2	9.8	8.5	4.2	76	表：■ (マークカ) 本家土佐 登録商標 片万 正鋼特製 林万吉謹製 裏新明 特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数(鬼刃を除く)4本
	20640	82	19	13.8	18.5	4	61	表：■ (屋号=桜の形の中に「一」の下は不明) 保険 會津住 中屋光右衛門作 (花押) 日本一 裏：安来鋼 特徴：窓の数は9ヶ所で窓間の刃の数(鬼刃を除く)4本
	20825	83	19.5	16	18	4.5	65	表：儀 登録 極鍛撰 玉鋼打 秋田市住中屋儀兵衛門作 別上 特製 裏：下川町 (屋号=△のした小) 小林請合 特徴：窓の数は8ヶ所で窓間の刃の数(鬼刃を除く)4本
木 挽 鋸	94	73	41.5	25.7	18	5.7	55	表：改■ (△の下に「大」または「木」) 特徴：刃の一部にチョンガケの跡がある。銑がけ跡あり。
	95	72.5	38.2	28.1	23	6	54.4	表：峯 (以下磨耗のため不明) 裏：■ (屋号=△△の下に「良」) 別打■ (キズカ) 特徴：槌あと有り。
	243	65	29.6	22.9	20.5	5	53.5	表：近■ (江カ) 甲■ (賀カ) ■ (屋号=○の中に正榮) 特徴：槌あと有り。溶接あと有り。
	535	67.5	30.6	32	20.7	4.5	55	表：■ (彖カ) 裏：■ (○の中に一) ■ (近カ) ■ (オカ) ■ (○の中に木) 特徴：槌あと有り。
	908	77	34.5	24.8			54.3	表：登録 商標 元祖■ (磨耗のため不明) 裏：■ 江深川 特徴：柄なし。槌あと有り
	1183	68	44	36	19.8	4	54.5	表：會津莊 中屋光右衛門 (花押) 白■ (氏の旁カ) 郡 和鋼質 特徴：先の方にチョンがけのあとが少し残っている。槌あと有り。
	4946	69.5	33	21	18.8	6.8	55	裏：■■ (塩カ) 儀 商標登録 ■ (屋号=一の中に「中」) 特徴：槌あと有り。
	6464	69.2	37	26.5	16.5	5.5	54.2	表：近江甲賀 ■ (屋号=「八」の下に「天」) 改 別打 特徴：数本の刃にチョンがけのあとがある。槌あと有り。首の部分にすだような溶接あとがある。
	6482	68	38.5	28.5	21	6	57.5	裏：別改 特徴：チョンがけあと有り。槌あと有り。
	6483	63.5	36	24.4	16.7	5.2	54.5	表：別打 ■ (屋号=四隅の飛び出す◇の中に「マ」) 特徴：
	6987	67.6	31	21	18	5.1	55	表：柚■■ (キセカ) 文右門 裏：■ (屋号=一の中に「太」) うけ口 特徴：槌あと有り。
	7784	79.5	44.5	30.2	18	4.6	54	特徴：チョンがけが刃の一部に見られる。槌あと有り。
	7785	69.2	42.4	30.5	18	5	55	表：商■登■ 右■門 ■ (屋号=「八」の下に「二」) 裏：■■■ (名前カ) 廿■ (近カ) ■ 甲賀
14339	82	33	24	16	5	54	表：登録商標 ■ (屋号=「八」の下に「二」) 改 裏：近江 甲賀 特徴：チョンがけ有り。槌あと有り。銑がけ有り。溶接有り。	

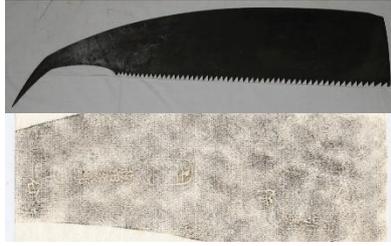
種類	収蔵No.	寸法 (cm)						銘・特徴等
		全長	先幅	手元幅	柄長	全長	先幅	
木挽鋸	15873	68.8	25.7	19.1	20.5	4.9	55	特徴：チョンがけ有り。槌あと有り
	15874	70	38.2	26.5	17.5	5.5	55	表：登録商■ ■ (マーク=二重丸の中に「組合」) 裏：近江 深川 特徴：チョンがけ有り。槌あと有り
	15876	66	37	26	18	5.5	53.7	登録 ■ 標 江戸■ (屋号=○の中に九) ■ ■ 左右の文字は磨耗のため不明 裏：■ 江■ 賀 特徴：槌あと有り。
	15877	71	39	28	16.9	6.1	54	表：■ (マーク=二重丸の中に「組合」) 登録商■ (標カ) ■ (屋号=「○」の中に「九」) ■ ■ 裏：近江 甲賀 特徴：一部の刃にチョンがけ有り。槌あと有り。
	15878	63.3	36.5	26.5	19	5	56	特徴：チョンがけ有り、槌あと有り。
	15879	68	45.6	30.8	22.5	5.1	57	特徴：チョンがけ有り、槌あと有り。
	15880	66.7	37	26	18	5	53.4	裏：■ (屋号=△△の下に小槌の絵) ■ ■ (記号)
	15884	68	36.5	27.3	18	5.1	54	表：登■商■ 元祖 裏：■ (近カ) 江 ■ (深カ) 川 特徴：チョンがけ有り。槌あと有り。
20828	81	44.5	31.5	18.6	5.9	57.3	表：本家 作左エ門 特徴：刃の一部にチョンがけあと有り。槌あと有り。	
腰鋸	4533	52.3	6.5	5.8	13.5	3.5	40.2	表：大極上 中屋■■■■作 別打品 特徴：溶接あと有り
	5454	31	2.5	3	23.8	2.5	25	特徴：両刃鋸。元々あった大きな鋸(腰鋸?)を加工して作られたと考えられる。
	6469	56.4	5	4.2	13.5	3.8	41.6	表：極上 正■中屋幸兵衛(花押)
	6988	50.9	4.5	5	11.9	3.5	34.4	裏：下川(屋号=△のした小) 小林請合
	7097	48.9	7.2	6.4	17.3	3.8	39.4	
二次加工された鋸	373	76.5	5.2	4.5	17.2	4.6	53	特徴：元々「帯鋸」。この鋸は細作りの鋸で木を切り倒す際、倒木一步手前でこの鋸にかえて切り倒した。元々大きな鋸を切断して細長い帯鋸風に改造したと考えられる。
	534	73	17	11	17.5	3.5	53	表：中屋■■■■■ 裏：下川(屋号=△のした小) 小林刃■■■ 特徴：元々「窓鋸」。刃の手前側をバラメ状に加工している。加工が意図的なものなのかは不明。窓の数は全部で7ヶ所、但し加工されていないのは4ヶ所で窓間の刃の数(鬼刃を除く)4本。
	4945	72.3	10	10.2	15.2	5	45	表：中屋宗右衛門作 特徴：元々「天王寺鋸」。形状は首の長い木挽大鋸のようであるが、全体としては天王寺風にも見える。首に二つの穴が開いている。穴は銘を打ち抜いているので後から打ち抜いた。
	6468	78	8	6	16	4.2	50.5	表：登録 ■ (屋号=「一」の中に「大」) 登録 極上 會津正宗(花押) ■ ■ 請合 裏：■ (「○」の中に「清」) 特徴：元々「天王寺鋸」か「窓鋸」であったものを加工している。銘が切れている。
	15872	76	7.8	7.6	20	4.6	59.4	表：■ (登カ) 録 中屋重兵■ (衛カ) 極上等 特徴：元々「天王寺鋸」。刃の真ん中あたりに溶接跡あり。刃の形や銘が縦に切れているところから、元々幅広い鋸を切断し細くして、新たに刃を打ち抜いたようである
その他	7098	46.8	0.8	5.8	16.5	3.5	38.5	差切鋸
	7099	42.5	5	1.5	14	3.5	32.2	差切鋸
	15867	49.5	3.3	6	16	3.5	36.5	差切鋸
	20642	62	7	6.2	24	3	51.3	氷用鋸 表：ステンレス鋼 火■■■ 登録 ■■■ 富士光 特撰請合 別■■■ 特徴：ステンレス製。柄に「NOD A」と書かれている。

<写真・拓本>

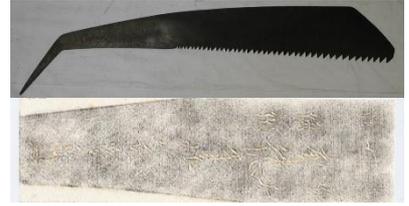
No.532



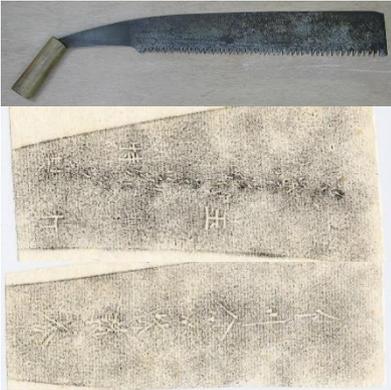
No.6473



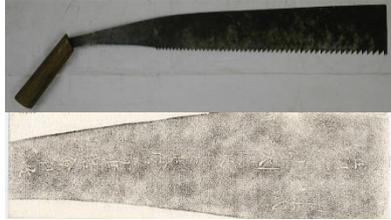
No.15881



No.920



No.6476



No.15882



No.922



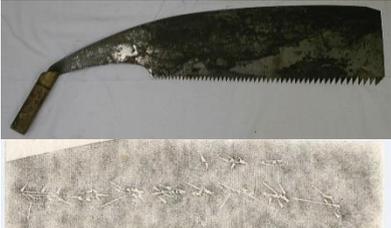
No.6479



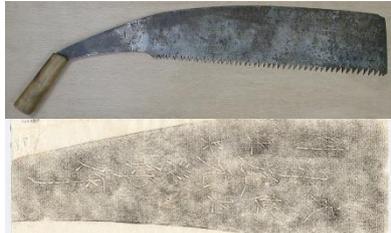
No.15885



No.1197



No.6984



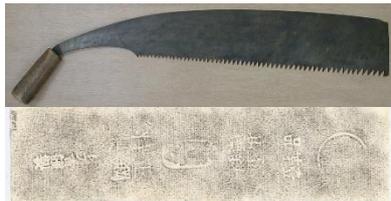
No.15886



No.6466



No.6985



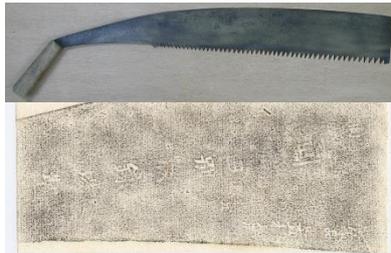
No.15887



No.6470



No.6986



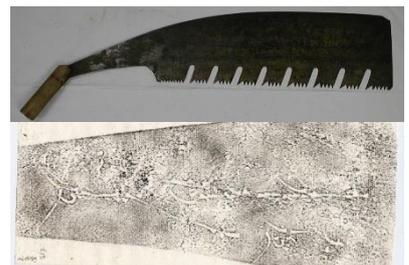
No.143



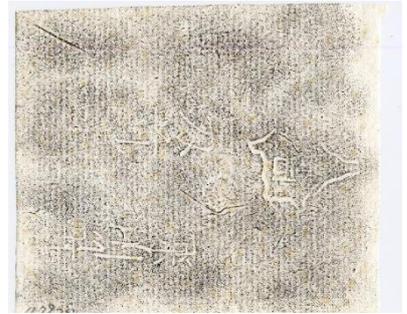
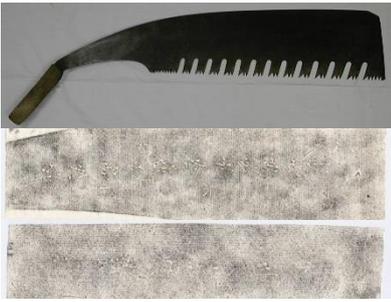
No.15871



No.515



No.516



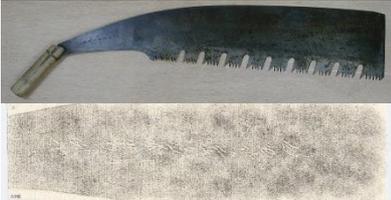
No.539



No.1180



No.517



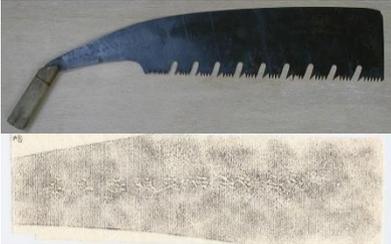
No.921



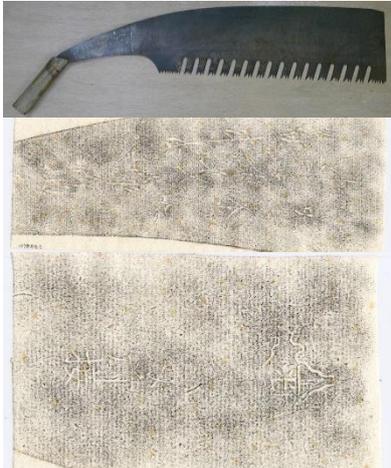
No.1181



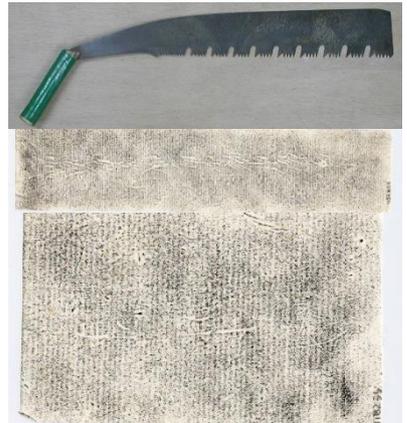
No.533



No.1178



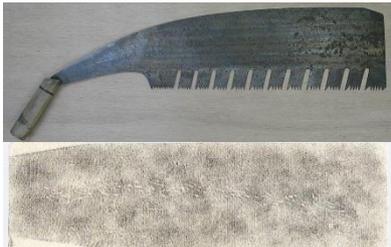
No.1182



No.536



No.1179



No.4620



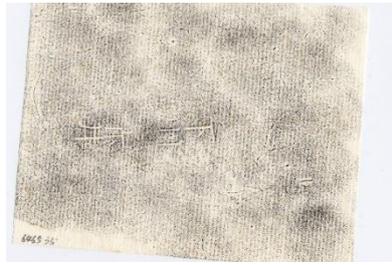
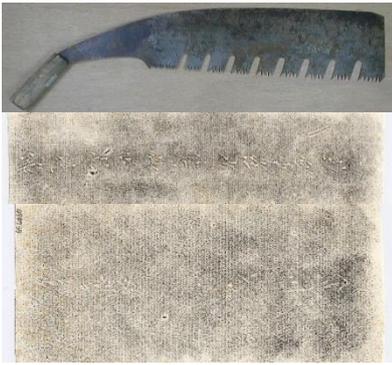
No.537



No.538



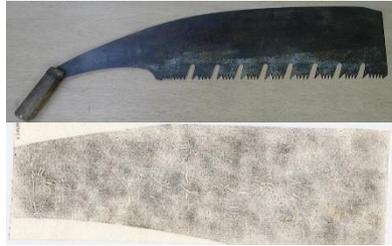
No.4947



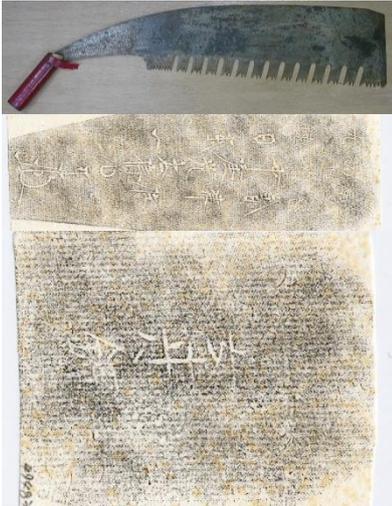
No.7782



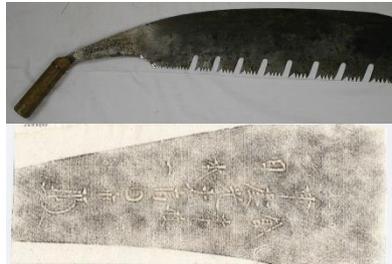
No.6467



No.4948



No.6474



No.7783



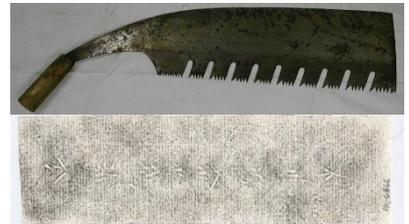
No.7786



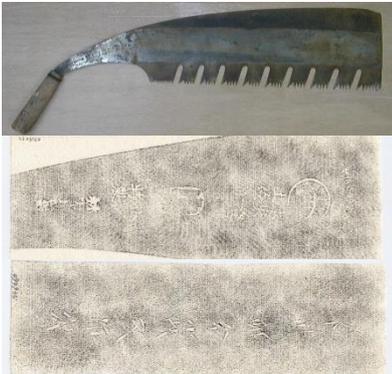
No.6477



No.7787



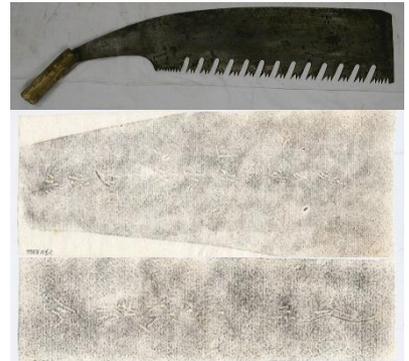
No.4949



No.6480



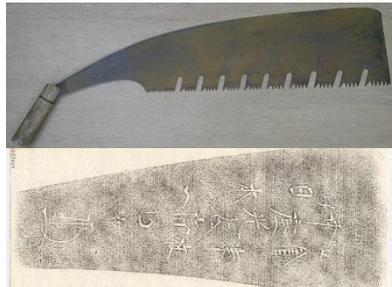
No.7788



No.6465



No.6567



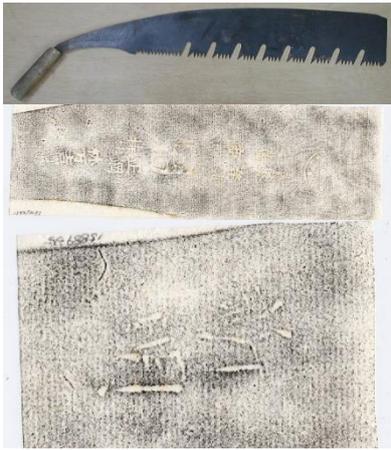
No.7789



No.7790



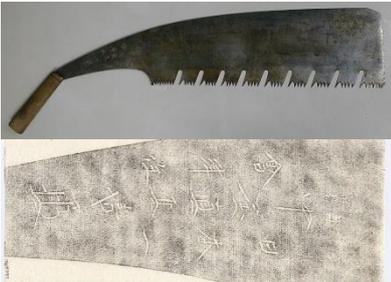
No.15889



No.95



No.14338



No.20640



No.14730



No.243



No.20825



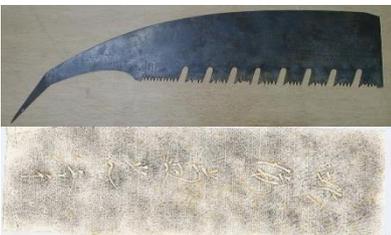
No.15875



No.94



No.15883



No.535



No.15888

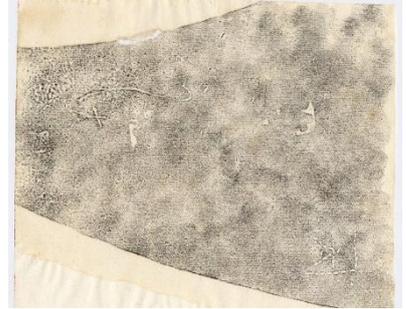
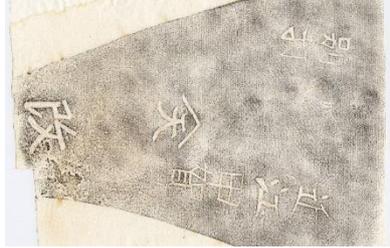




No.6464



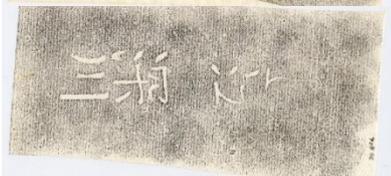
No.908



No.6482



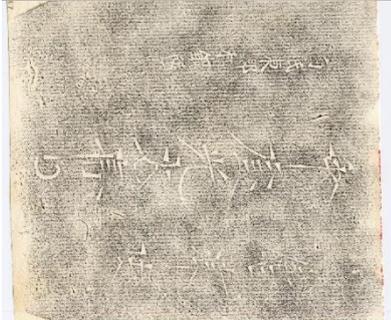
No.7784



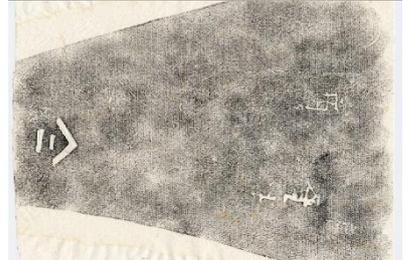
No.1183



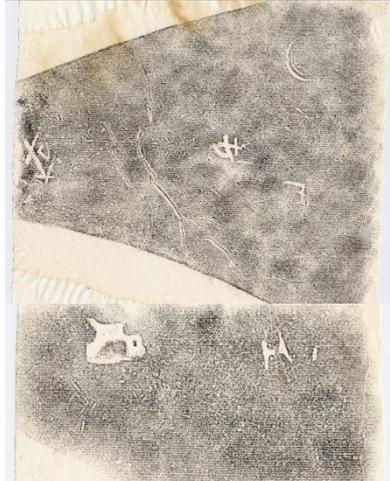
No.7785



No.6483



No.4946

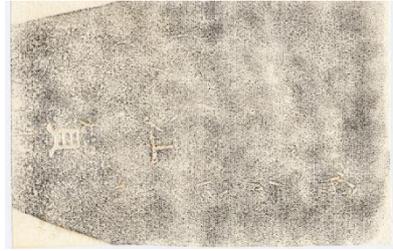
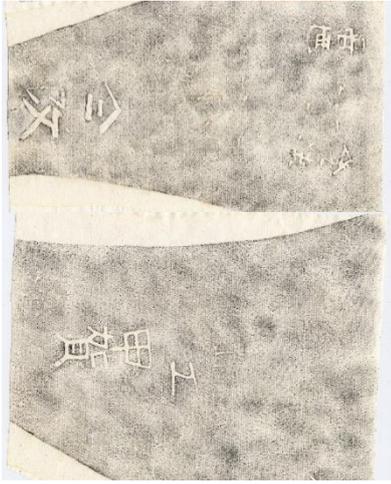


No.14339



No.6987

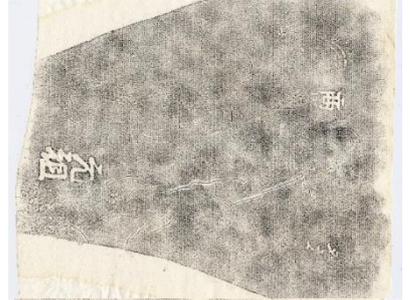




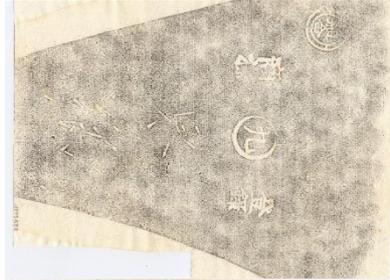
No.15884



No.15877



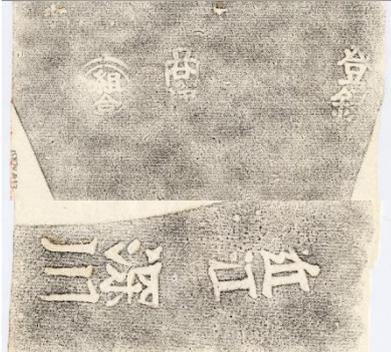
No.15873



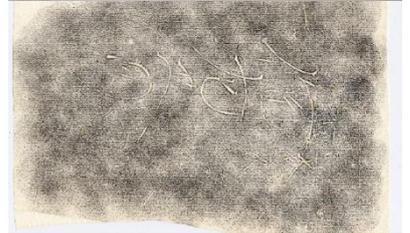
No.15874



No.20828



No.15878



No.15876



No.15879



No.4533



No.15880



No.5454



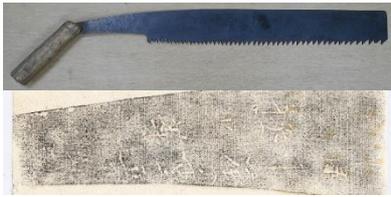
No.6469



No.6988



No.15872



No.7097



No.7098



No.373



No.7099



No.534



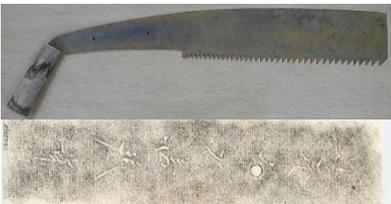
No.15867



No.20642



No.4945



No.6468

